
国際協力 草の根の力

オイスカ タイランド
プラヤット・サバンスック

オイスカタイランド

- 植林
(マングローブ植林、陸地での植林)
- 環境教育
(学校単位での活動、地域住民への啓蒙)
- 有機農業の指導
(学校を核として、地域へ普及)

OISCA

植林事業

■ マングローブ植林

2010年度末までの累計 1484.6ha

■ 陸地への植林

2010年度末までの累計 338.85ha

環境教育、地域住民への啓蒙活動を
平行して実施

企業、民間団体等との協働実績

- 東京海上日動火災保険(株)
- ダンロップ チームエナセーブ
- 住友化学(株) & 住友化学労働組合
- 九州電力労働組合
- 電機連合
- JEC連合
- IBM & 黒田電気
- (株)あいや
- その他、団体や企業多数

民間団体との連携

- 社員やメンバーによる植林ツアー
- 取材、広報用素材の撮影
- 支援者への報告



質問

高い飛行機代をかけたまで、日本人がタイへ植林に来る意味はあるのか？

答え？

その交通費を、そのまま植林のお金にしたほうがいい・・・？

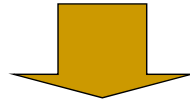
民間団体との協働で、
植林ツアーを受け入れる意味



OISCA (Thailand) 2010

日本人への気付きのきっかけ

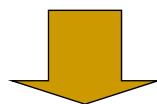
- 単純な体験ツアーに終わらせるのではなく、なぜこのプロジェクトが必要なのか、プロジェクトがどう地域に作用しているのか、また日本人が来ることの意味などを理解した上で、植林と交流体験を実施



- 一人ひとりの意識が変わり、団体として来ていた参加者も、帰国後は個人で取り組める活動を自発的に探し、参加するようになる。こうした**帰国後の持続的な活動へのきっかけ**となっている。

地域住民への強い印象

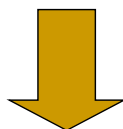
- 日本からわざわざ飛行機を乗り継いで、タイの田舎に植林に来る、というできごとが、普段は「植林」や「地球環境」などにあまり目を向けていなかった住民にとって、大きな意識付けのチャンスとなる。



- 「植える」ということの大切さ、また地球規模での課題であることに気付いた。

地域住民のモチベーションと責任感の向上

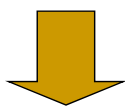
- 自分たちの地域の森を外国人がわざわざ来て守っている、植えているということに対して、プレッシャーを感じるようになる。



- 自分たちの森は、誰よりも自分たちが守らなければならないという意識を持つ。また、毎年継続して訪問する日本人に対して、「木々を枯らさないように」という責任感が生まれる。

日本、タイの友好親善活動

- 顔の見える国際協力が生んだ絆が、それぞれの立場を思いやる関係を生んだ。それぞれの国の緊急時には、自然に手を差し伸べる関係が生まれた。



- 草の根レベルの安全保障



2011年3月 日本で大地震が起きた！



タイの人々が動いた...



2011年10月 タイで大洪水が起こる



日本の植林ツアー経験者たちが動いた！



帰国後も続く友情

- 帰国後も、できるだけ連絡を取り合うように心がける
- 国内での継続した活動につながるよう、情報を提供するなどフォローする

友情が続く⇒活動が続く

草の根の国際協力の真の意味とは・・・

- 民間レベル、個人レベルの絆から生まれる
- 富める者から貧しい者への一方通行ではない

「日本からの国際協力」は

「日本への国際協力」につながっている

民間の力、一人ひとりの 小さな力がプロジェクト 成功のカギ

私たちは、出あったみなさん
一人ひとりとの縁を大切に、活
動をすすめています



ご清聴いただき、
ありがとうございました！